

子どもがいる親世代に聞いた
「2020年子どものお小遣い・金融教育に関する調査アンケート」
半数以上が子どものお小遣いのキャッシュレス化に関心あり！
金融教育で特に学ばせたいことは「資産運用」や「投資」

e-ラーニングに関するサービスの様々なコンテンツを提供する株式会社イー・ラーニング研究所(代表取締役:吉田智雄、本社:大阪府吹田市 以下、イー・ラーニング研究所)は、コロナウイルスの感染拡大を受け、キャッシュレス決済が浸透する中、各家庭のお小遣いや金融教育に対する意識を調査するために、子どもがいる親を対象に「2020年子どものお小遣い・金融教育に関する調査アンケート」を実施いたしましたので発表いたします。

イー・ラーニング研究所は、インターネットを利用した家庭向けe-ラーニングサービス『フォルクラブ』、小中学生向け動画教育配信サービス『スクールTV』などのデジタルサービスに加え、世界で活躍できる力を身につける、小学生向け次世代型社会体験教材『子ども未来キャリア』を展開しています。

今回、イー・ラーニング研究所では20代~50代の子どもがいる親を対象に「2020年子どものお小遣い・金融教育に関する調査アンケート」を実施いたしました。その結果、子どものお小遣いや金融教育に対する親世代の心境がわかる調査結果となりました。

【「2020年子どものお小遣い・金融教育に関する調査アンケート」調査概要】

調査方法 : 紙回答

調査地域 : 全国

調査期間 : 2020年10月8日(木)~2020年11月5日(木)

調査対象 : 20代~50代の子どもがいる親 男女 計216人

※本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「イー・ラーニング研究所調べ」と明記してください

調査結果概要

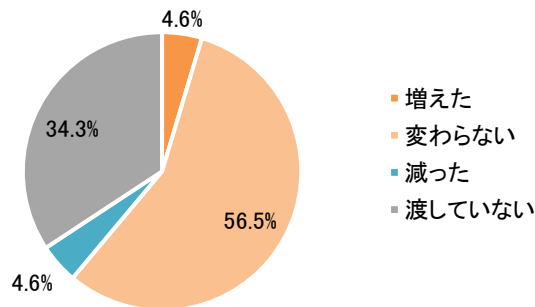
- ① **新型コロナウイルス拡大してもお小遣いの額を変えなかった人は半数以上！**
お小遣いの金額「2001円~3000円」が最も多く、お小遣いの渡し方の9割以上は「現金」
⇒半数以上が、新型コロナウイルス感染症拡大前後でお小遣いの金額を変えておらず、お小遣いを渡している家庭の9割以上は「現金」で渡していることが分かった。新型コロナウイルスの影響により外出する機会が減っても、お小遣いの金額に変化はなかった。また、現金でお小遣いを渡す人の中でも、「クレジットカード」や「スマホ決済サービス」を併用している人もいた。
- ② **半数以上がお小遣いのキャッシュレス化に関心あり！**
子どものキャッシュレスの手段は「ICカード」が最多に
⇒お小遣いのキャッシュレス化について関心がある親は半数以上に上った。また、約4割は子どもがキャッシュレス決済を使用していると回答し、手段としては「ICカード」が最も多い回答となった。通学や通塾で使用する機会の多いICカードは子どもたちにとってのキャッシュレスの決済手段になりやすいと考えられる。
- ③ **4人中3人が子どもの金融教育を行っていない！？**
子どもの金融教育で学ばせたいことは「資産運用」や「投資」
⇒約8割が子どもの金融教育を行っていないと回答した。また、約7割は子どもの金融教育が「小学校低学年」以下から必要と感じており、現金からキャッシュレスへと移り変わる世の中において早いうちから学ぶ必要があると考えていることが明らかになった。そして、金融教育について特に「資産運用」や「投資」を学ばせたいという結果が出た。新型コロナウイルスの影響により先行きが不透明になっている今、お金の使い方よりもお金の増やし方やキャッシュレスの一つとして話題となっている仮想通貨について学ばせたいと推測される。

1. 新型コロナウイルスが拡大してもお小遣いの額を変えなかった人は半数以上！

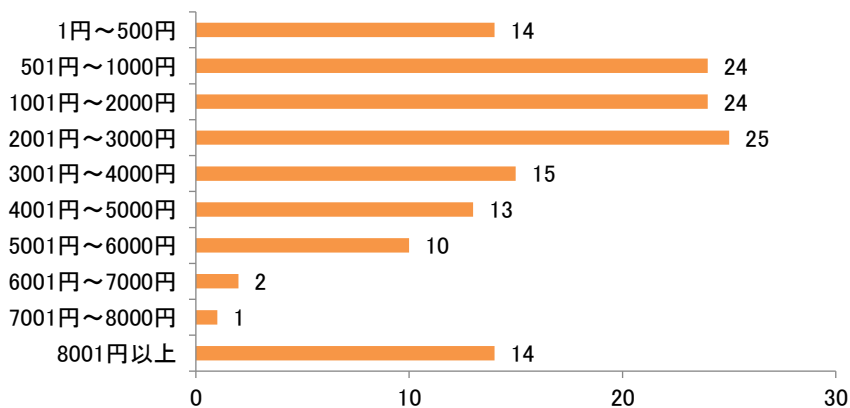
お小遣いの金額は「2001 円～3000 円」が最も多く、お小遣いの渡し方の 9 割以上は「現金」

「新型コロナウイルス感染拡大前後で、子どものお小遣いの金額は変わりましたか<SA>」という問では、半数以上が「変わらない」と回答し、約 35%は「渡してない」と回答しました。お小遣いの金額は「2001 円～3000 円」(25)が最も多く、「1001 円～2000 円」(24)、「501 円～1000 円」(24)が僅差で並ぶ結果となりました。新型コロナウイルスの影響により外出する機会が減っても、お小遣いの金額に変化は見られませんでした。さらに、お小遣いの渡し方としては 9 割以上が「現金」(133)と答え、「クレジットカード」や「スマホ決済サービス」を併用している人もいました。

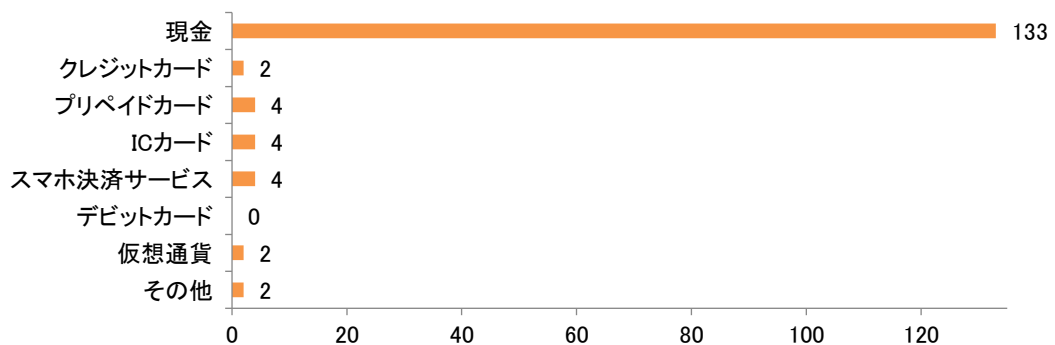
Q: 新型コロナウイルス感染拡大前後で、子どものお小遣いの金額は変わりましたか<SA n=216>



Q: 「増えた」「変わらない」「減った」と答えた方に質問です
月額の子どものお小遣いはいくらですか<SA n=142>



Q: 「増えた」「変わらない」「減った」と答えた方に質問です
お小遣いの渡し方は次のうちどれですか<MA n=142>



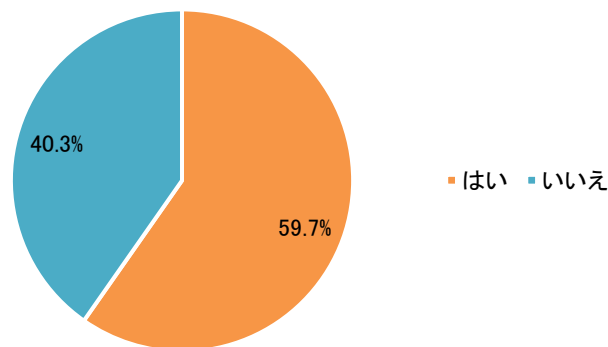
2. 半数以上がお小遣いのキャッシュレス化に関心あり！

子どものキャッシュレスの手段は「ICカード」が最多に

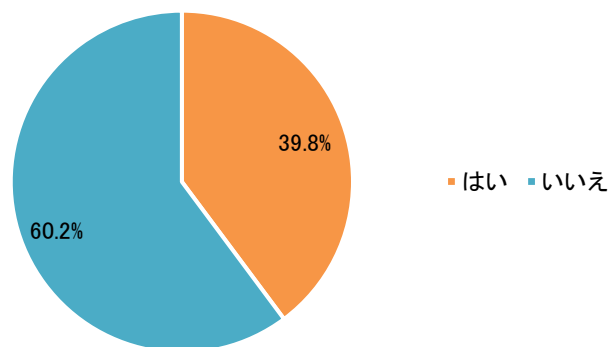
「お小遣いのキャッシュレス化に関心がありますか<SA>」という問では、半数以上が「はい」(129)と回答しており、現金派が多いものの非接触の決済手段としてキャッシュレスへの関心は高いことが伺えます。

また、「子ども自身が交通系 IC カードなど現金以外でお金を使うことはありますか<SA>」という問では、4割近くが「はい」(86)と回答し、現金以外で子どもがお金を使う機会が増えていることが伺えます。さらに、現金以外で子どもがお金を使用する手段としては「IC カード」(50)が群を抜いて最も多い結果となりました。通学や通塾で使用する機会の多い IC カードは子どもたちにとってのキャッシュレス決済の手段になりやすいと考えられます。

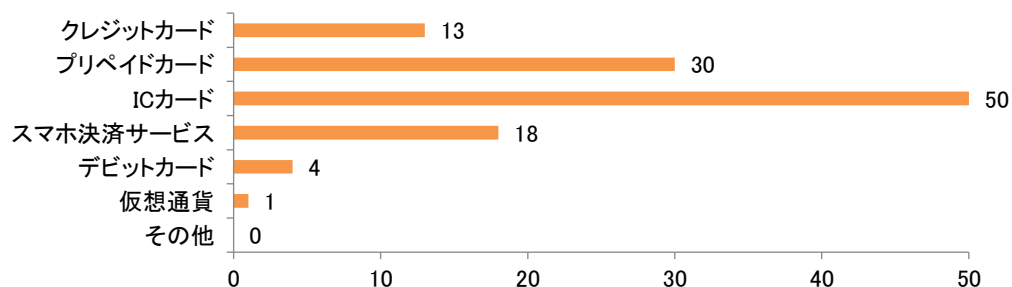
Q: お小遣いのキャッシュレス化に関心がありますか<SA n=216>



Q: 子ども自身が交通系 IC カードなど現金以外でお金を使うことはありますか<SA n=216>



Q: 「はい」と答えた方に質問です
子どもが使っている現金以外のお金の使用手段は何ですか<MA n=86>

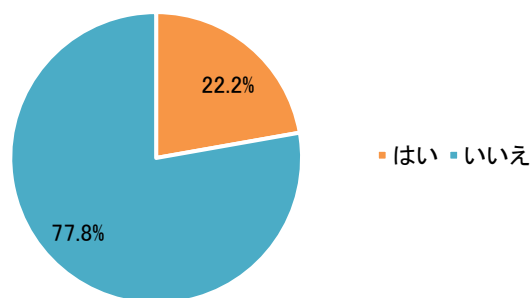


3. 4人中3人が子どもの金融教育を行っていない!

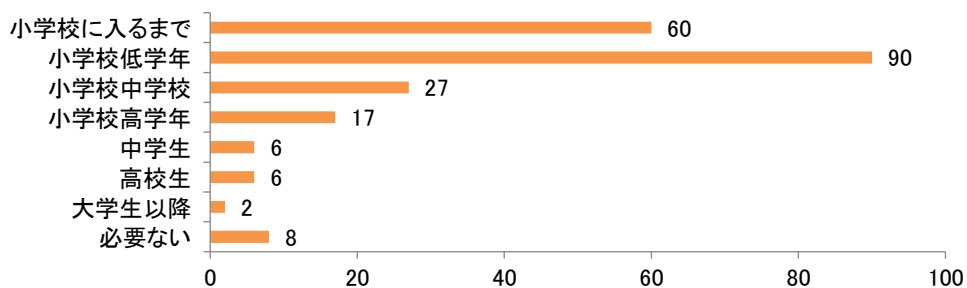
子どもの金融教育で学ばせたいことは「資産運用」や「投資」

「子どもの金融教育を行っていますか<SA>」という問では、約 8 割が「いいえ」(168)と回答しました。一方で、約 7 割が子どもの金融教育は小学校低学年以下から必要としており、現金からキャッシュレスへと移り変わる世の中において早いうちから学ぶ必要があると考えていることが明らかになりました。「金融教育について特に学ばせたいことは何ですか<MA>」という問では、「資産運用」(157)が最も多く、次いで「投資」(102)、「仮想通貨」(91)が回答に挙がりました。新型コロナウイルスの影響により先行きが不透明になっている今、お金の使い方よりもお金の増やし方やキャッシュレスの一つとして話題となっている仮想通貨について学ばせたいと考えていると推測されます。

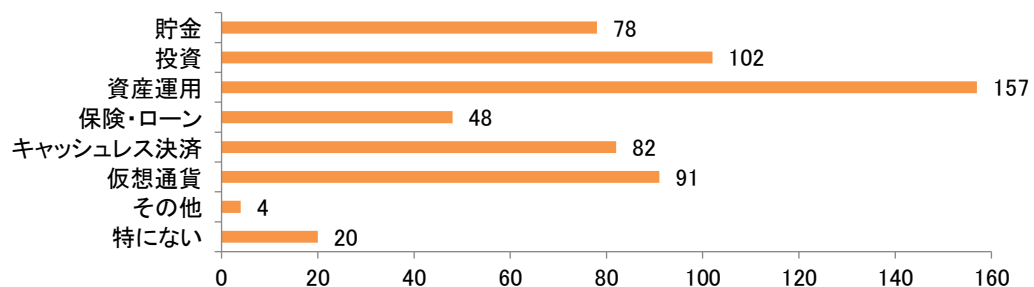
Q: 子どもの金融教育を行っていますか<SA n=216>



Q: 子どもの金融教育はいつから必要だと思いますか<SA n=216>



Q: 金融教育について特に学ばせたいことは何ですか<MA n=216>



【「スクール TV」概要】

「スクール TV」は、「学習習慣の定着」を目的とし、全国の主要科目の教科書内容を網羅した小中学生向けの動画教育サービスです。約 1,000 本の教科書に対応した授業動画を配信し、自ら能動的に学習する「アクティブ・ラーニング」のメソッドを日本で初めて動画内に導入しています。

また、学習習慣が身についた子どもが、もう 1 つ上の目標を目指すために開始された学習コンテンツとして、現在、教科書や教材出版社など他社のドリルも提供しています。

- URL : <https://school-tv.jp/>
- 利用料金 : 無料
有償プラン(「成績向上目的の学習コンテンツ」を有償で提供)
 - ・スクール TV プラス: 月額 300 円
 - ・スクール TV ドリル: 200 円～ ※学習教材により異なる

- 対象 : 小学生(1 年生～6 年生)、中学生(1 年生～3 年生)
- 学習内容 : 小学校 1～2 年生: 算数
小学校 3～6 年生: 算数・社会・理科
中学校 1～3 年生: 数学・社会・理科・英語・国語

■ サービス特徴 :

1. 「授業動画が見放題」
 - ・小中学校の教科書に対応した授業動画が見放題
 - ・単元の中で「重要ポイント」に絞り込み、テレビを見るような感覚で楽しく学習できる
 - ・映像総数: 約 1,000 本
2. 「やる気を育てる講師陣」
 - ・有名大学の現役学生を講師として採用
 - ・お兄さん・お姉さんのような親しみやすさを演出
3. 「アクティブ・ラーニングメソッド採用」
 - ・文科省が推進する主体的・対話的で深い学び「アクティブ・ラーニング」の視点を導入
 - ・授業開始前の約 5 分間に「アクティブ・ラーニング動画」を採用し、子どもの興味を惹きつける
 - ・定期的に質問を投げかけるなど適度に自分で考える機会を与えることで、「能動的」な学習が可能



【「子ども未来キャリア」概要】

「子ども未来キャリア」は、小学生から“夢”や“目標”を持ち、“社会で必要な力”を育む次世代型社会体験教材です。夢・目標を持てるための「キャリアビジョン」と、夢・目標を叶えるための「ビジネススキル」両輪を育みます。「QMI メソッド」と呼ばれるアクティブ・ラーニング型の独自メソッドを用いて授業を実施します。使う学習ツールは子どもたちに具体的想起をうながす「スライド投影」と学習テーマを疑似体験できる完全オリジナル「テーブルゲーム(ボードゲーム・カードゲーム)」です。「QMI メソッド」では、子どもたちが自分のこととして学ぶことができるため、意欲的かつ、効率的に楽しみながら学ぶことができます。

- URL : <https://force-academy.jp/kodomo-mirai-career/>
- 教材対象年齢 : 小学 1 年生～小学 6 年生
- 販売対象 : 全国の子ども向けスクールや学習塾など教育関係の組織・企業
- 学習テーマ:



国際的に定義された「21 世紀型スキル」10 領域の解釈と日本の子どもに必要な社会的スキルの学習テーマで構成されています。現在定義されたテーマは 12 ですが、これらの要素は「時代・社会」や「子どもたちの環境」、「保護者が求める環境」に沿い、常に更新されていきます。

- A. お金の大切さと成り立ちを知ろう
- B. 夢を叶える“逆算思考”を学ぶ
- C. 家族・友達と仲良くいられる“コミュニケーション”を知ろう
- D. 友達と協力することの大切さを知る チームで活躍する“チームワーク”
- E. 自分の意見が言えるようになる 子ども“ディスカッション” など

【株式会社イー・ラーニング研究所】

名称 : 株式会社イー・ラーニング研究所

本社 : 大阪府吹田市江坂町 1 丁目 23-38 F&M ビル 6F

東京支社 : 東京都港区港南 1 丁目 8-40 A-PLACE 品川 1F

代表者 : 代表取締役 吉田 智雄

URL : <https://e-ll.co.jp/>